男子バスケ

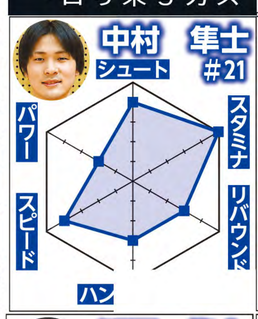
東京都到来だ

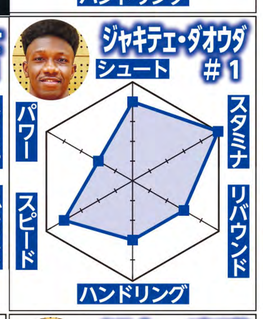
悲願1部昇格へ ファブ5健在

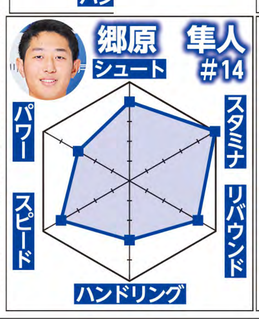
大川

中村

▼ファブ5　米大学バスケに旋風を起こしたミシガン大の1年生5人。1992、93年と2年連続で全米選手権の決勝に進出。クリス・ウェバー、ジェイレン・ロージズらがNBAでも活躍した。







江戸川大学男子バスケットボール部は黄金期の到来を予感させるメンバーで2022年に臨む。経営社会学科准教授の青木拓郎部長は「新人戦のメンバーが（年度が変わって）そのままAチームになったような、うちの大学では珍しいケース」と話す。1年時から公式戦に出場するメンバーは、かつて米大学バスケを席巻し「ファブ5」と呼ばれた5人組を思わせる勢いで成長を続ける。チーム史上初の関東大学リーグ1部昇格を目指す。

リーグ最終戦で見せた勝負強さ

3年生中心の主力を束ねる主将の大川颯斗（経営社会4年、千葉・市立船橋高）は「去年から試合に出ていた選手が多い中で、昨シーズン目標達成できなかった悔しい気持ちを忘れず、毎日の練習や毎回の試合でバスケットを楽しみながら、負けないチームをつくり上げていきたい」と力強く宣言する。

昨秋はリーグ5位（12チーム中）と、何とか上位に滑り込んだ。結果次第で8位もあり得た最終戦は、今年につながる一戦だった。11月16日の関東学院大戦、第3クォーターで最大16点のリードを許していたが、第4クォーターで同点に持ち込み、オーバータイムで勝ち越し。80―75で勝利した。

課題の勝負強さが見られた試合だった。青木部長は「2部に上がって10年で、2位が最高。勝負が懸かった場面で何ができるかが課題。2桁得点差を1桁に詰める守備や、9点差から2桁リードに突き放すシュート。フリースローも8割決めてもらいたい。そういう経験をどれだけ多く積めるか」と話す。

青木部長も期待を寄せる

ダオウダら主力 戦い方を〝熟知〟

Bリーグ下部のB3で練習生としてプレーしたこともあるジャキテェ・ダオウダ（経営社会3年、千葉・日体柏高）ら主力は下級生として昨季の戦いを経験し、今年も含めリーグ戦での戦いをあと2年残している。ぎりぎりの場面を多く経験して壁を破るという、青木部長の求める部分を実行する土台は整っている。

古賀賢一郎ストレングスコーチは「みんな真面目で一生懸命だ。ただ、そこまでで止まってしまうチームも多い。だからこそ、自分がどうすればもっと高いレベルへ行けるのかを意識することが大切だと思う」と昇格が個々の意識にかかっていると強調する。

大川主将が掲げる「楽しみながら、負けない」で、今年こそ厚い壁を打ち破る。

経験豊富3年生主体に 大川主将「楽しみながら負けない」

郷原

「競技通じた人材育成」体現するスタッフ

衛藤マネジャー（左）と楢岡マネジャー

男子バスケットボール部には選手以外にも部活動を支える要が存在する。部の運営に携わる学生スタッフが4年の衛藤崇（情報文化4年、千葉・市立船橋高）を筆頭に各学年に配置されている。

仕事は多岐にわたる。学連との連絡や書類作成、練習のサポート、映像分析によるスカウティング、更にはトレーナーの補佐としてテーピングなど、組織運営の基本とバスケットボールの専門知識が求められる。衛藤は「肩書はマネジャーだが、オールラウンド」と話す。学生スタッフこそバスケ部の全貌を知る存在だ。

衛藤は高校時代からバスケの指導者を目指し、江戸川大学で学生スタッフになる道を選んだ。「将来は高校生を指導したい。技術指導だけではなくてさまざまな作業を身に着けることは必要だと思っている」と積極的に仕事に臨んでいる。

「学び続けることを大事にしたい」と青木部長や、プロ経験のある糸川岳勤監督の下で先端のバスケットボールを学び、古賀コーチからトレーニングを学ぶ。南俊行、佐藤美結両トレーナーにはテーピングの技術などを教わる。

楢岡大樹（経営社会3年、秋田・国学館高）は高校からバスケットボールを始め「自分のスキルで関東2部では難しい」と選手としての限界を自覚していたという。しかしバスケ愛を捨てられず、学生スタッフとなった。

楢岡が心掛けているのはまめなコミュニケーション。「例えば20人の前で話したとして、それぞれの捉え方がある。それを何とか全員に伝わるように考えている」。そのために常に選手と密な関係を保つことを重視している。「社会人になって求められることも同じだと思う」と話す。

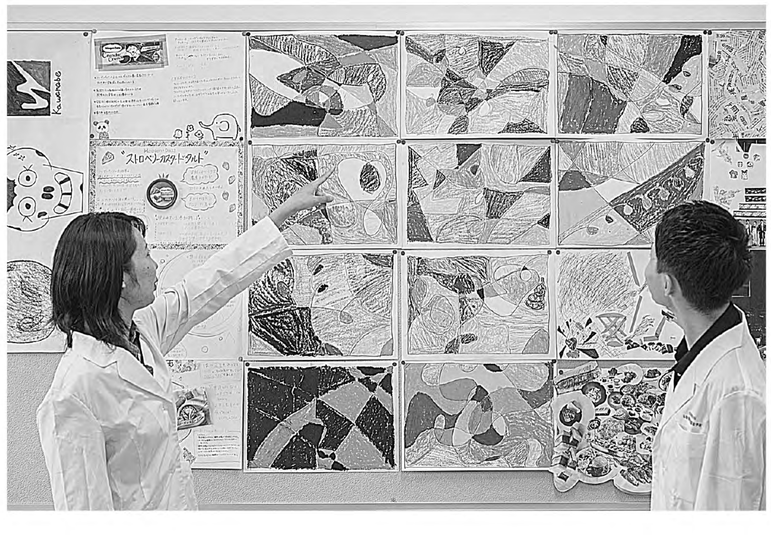
男子バスケットボール部のチームポリシーは「大学教育とバスケットボール競技を通じて社会に貢献できる人材の育成」。これを最も分かりやすい形で体現しているのが、学生スタッフたちだ。

☆紙面編集　河野　高宏

福祉の
プロになる。

EDOSEN

学校法人 江戸川学園
江戸川学園おおたかの森専門学校



・介護福祉学科
・こども福祉学科（保育）
・心理・社会福祉学科
・社会福祉士養成学科（通信課程）

0120-538-505（携帯可）
TEL 04-7153-8500（入試・広報課）｜ FAX 04-7153-8501
E-mail fukushi@edogawa-u.ac.jp（入試・広報課）
http://www.edosen.jp えどせん